



妙たえの光ひかり

通刊66号 復刊45号

2004年3月11日(季刊)

角田山妙光寺 発行

新潟県西蒲原郡巻町

角田浜 〒953-0011

TEL 0256-77-2025

木蓮

春、椿に始まって梅、カイドウ、桜、梨、こでまり、コブシ等々境内は花盛りになる。比較的早い時期に目立つのが、木蓮の花。こちらは紫木蓮といって、暗紫色の大きな花で、もう一本白木蓮がある。

葉の出る前の木に大きな花をつけ、しかも写真にあるように花の向きが皆同じ方向を向く性質があるという。開花の直前が最高で、花びらが大きいから開ききって、さらに散った姿はあまり美しいとはいえない。散った姿に風情があるのは椿。

同じ仲間です主に自然の山中にあるコブシは、木蓮の花をふた回り小さくした感じで、可憐な花が高木に咲いた様は見事。山門脇の池のほとりに一本ある。蕾の形が赤ちゃんのこぶしに似ているのが、名前の由来だそうだ。

木蓮の花びら風に折れてあり

松本たかし

ごぜんさま？

小川英爾

千葉県での葬式に出向いたとき、お経が終わった通夜振る舞いの席で親戚の方から質問された。「私のお寺は曹洞宗なのでご住職を方丈様と呼びますが、日蓮宗ではなんとお呼びしたらいいのでしょうか」。確かによく聞かれる質問だ。「日蓮宗ではお寺の格式によって呼び方が変わります。私も妙光寺では昔から御前様と言われていますので、檀家の皆さんもそう呼んでくださいます。ほら、映画の『フーテンの寅さん』に出てくる御前様、あれと同じです。柴又の題経寺というやはり日蓮宗のお寺ですが、映画の御前様は味があつて格好いいですけどね」。

いつもはこれで話は終わるのだが今回は違った。その方が意外なお話をおっしゃる。

「それなら私と一緒だ」。そこで私が「いえ、朝帰りの午前様とは字が違いますよ」と笑いながら言うと、「ええそうですよ、御前と書くんです。実はそれが私の苗字なんです。これでミサキと読みます。珍しいですよ」。同席していた皆さんでへエーとなった。「私は

和歌山の出身ですが元々は京都の神官から落ちぶれた、そんな由来があるようです」と説明してくださいました。

人柄も明るい方で話すうちに親しくなり、その方の奥様共々ホテルに移動するタクシーの車内で「明日の朝の出発時間が早いけど大丈夫。ここには御前様が三人もいる。この三人が行かなきゃ葬式は始められないんだから」なんて、ミサキさんすっかり酒の勢いもあつて御前様つなかりに気分がよかつたようだ。

お寺の住職の呼び方は宗派によって違う。曹洞宗でいう方丈様とは、昔インドの維摩(ゆいま)という修行者の部屋が一丈四方(ほぼ四畳半)の広さだったと言う故事由来する。ここから住職の部屋の広さが一丈四方になり、それが部屋を指す方丈になり、さらに住職の呼び方に変つたそうだ。浄土真宗では御院主様とか、御当院様と呼ぶ。御院主様は寺院の主そのもので、ご当院様は調べてみたがよくわからない。

我が日蓮宗では僧侶を上人(しょうにん)と呼び、普通の寺の場合住職も檀家はお上人様と呼ぶ。それが格式

のある寺の住職は御前様となり、さらにその上の本山の住職は貫主・首(かんじゅ、かんず)とか貫主・首様となる。

上人を辞書でひくと、智徳を備え、仏道の修行に励み、深大な慈悲心を備えている高僧。聖人。ここから僧侶に対する敬称として上人となったもので、日蓮宗、浄土宗、時宗で使われるとある。しかし通常は聖人と上人とは別けて使い、聖人は日蓮聖人、法然聖人、一遍聖人のようにその宗派を開いた方だけをいう。その他が上人で、信仰上の指導者といった意味合いの強い。そして御前様は神主や住職を敬つて言う言葉として、これも辞典にあった。なるほど、ミサキさんのご先祖様が神官だったというのもうなずける。

それぞれが面倒くさい。一般的には自分の寺の住職だけ知っていれば事足りる。ところが、お付き合いのある全ての寺の呼び方を記憶してきちんと使い分けていたのが、妙光寺のある隣の日葬儀社のお爺さんだった。高齢で今は退かれています、現役のところは「前の御前様はこうしておいででしたよ」などと、昔のことを知らない私にいろいろ教えてくれる、葬式のプロでもあった。後にも先にもこんな葬儀屋さんに出会ったことがない。

二十二歳で妙光寺の住職になった文字通り若僧の私に、御前様と呼んで接してくれたのは、檀家の皆さんもそうだが、こうした人にも教えられることが多かつ

た。最近は行動範囲が広がっているんな葬儀社の方に会うが、先生と呼ばれることが多く、そんなときはとても居心地が悪い。プロならせめて宗派ごとの呼び方を覚えるか、その場で聞いてもらえればと思うのは勝手な言い分だろうか。

それにしても正直なところ、住職になって三十年近くになるがいまだに自分でも御前様と呼ばれてしつくりこない。皆さんに呼んでいただいているのもなんだが、やはり、寅さんに出てくる笠智衆さんのように歳を取っていたほうが相応しい感じがする。面白いのは、たしかあの笠さんはお寺の息子だと以前テレビで見たように記憶している。私も歳なりにもっとそれらしくなる、かもしれない……

どこかで檀家の方から「御前さん」と呼ばれているお寺があった。ああこれも親しみがあつていいなと思つたことがある。親しみと言えば、私を「御前」と呼ぶ人が何人かいる。これこそ最高に親しみのこもつた呼び方で、本人も酒を飲むと「頼りにしてるからな」よく言う。

確かに創立以来六九一年の歴史を有し、私で五十三代目の住職となる格式のあつた妙光寺ではある。しかし歴史は大切だが、あまり過去の栄光にこだわることなく、これからの寺を皆さんとともに作って行きたいといつも考えている。引き続き宜しくお願いします。

寺の技術部長

巻町 本多 保 司さん（六十才）



十年余り前のある日、「実は女房が癌で、色々手を尽くしたけど治る見込みがないんだ。俺は群馬の出身で、女房は上越市の人間だから近くに親戚はもちろん、お寺の付き合いもない。仕事であちこちのお寺に寄せてもらったけどどこが一番気に入ったんで、もしもこのとき葬式してもらえないだろうか。」この言葉から妙光寺とのお付き合い

が始まった。それまでは出入りの庭師の応援で、庭石を動かしたり大きな木の移植をやるクレーン屋さんとして何度か来ていた、一風変わった感じの人だった。

葬式後すっかり落胆した本多さん、週に二、三回は寺に顔を出す日々が一年以上続いた。ところがその話題の豊富なことに驚かされた。新潟の大手クレーン会社に入って責任者を勤めた後に独立して巻町へ。住宅工事の棟あげにクレーンを使うことを普及させる等、クレーン作業の指導的役割を担ってきた。関連して重量計算、地耐力計算も専門家。クレーンで交通事故処理もやるから事故現場での人間模様から法律知識まで。それが高じて警察の相談員も委嘱されている。

そんなことから、広い妙光寺の管理を心配してくれるようになり、枯れた松の太木の伐採、前の本堂の屋根が風でめくれたときの応急修理。大勢集まる除夜の鐘やお盆、フェスティバル安穩では駐車場の白線を引きから当日の車の誘導。そして投光器、仮設トイレの運搬等々。このたびの三重塔修復に関連しての造園工事を、本業は息子たちに任せてかかりきりになっている。

そもそもが早大理工学部で学生運動に参加。嫌になって人を救うことをしたいと考え、退学して針灸とマッサージ師の資格を得た。健康相談にもなるから、いま本多さんを頼る人はとても多い。

お経の中に「薪および木の實、草の實を採って給仕する」とある。仏様への供養をいうが、寺のため、ひいては皆さんのため、さらには警察の相談員から健康相談まで。たくさんの人に頼られる本多さんの姿は、社会への供養といえる。

三重塔の修景造園工事進む 他

「ご判様」例年通りに

佐渡に流された日蓮聖人の警護役だった遠藤正遠が、日蓮聖人から授かったご判（印鑑）を妙光寺でご開帳するのが毎年四月の「ご判様」です。江戸時代から続いているようで、江戸城大奥に出張してご開帳した記録があったり、昭和三十年代頃までは近郷近在の大きな祭りとして大変な賑わいでした。

しかし時代の移り代わりで参詣の信者も昔の比ではなく、当番でお手伝いいただく檀徒のご協力でどうにか継続している状況です。さらに先般遠藤家の三十三代目当主が若くして亡くなられ、親族の方からこれ以上の協力は困難との申し出がありました。

役員会で協議の結果、伝統ある行事



であり、少なくなつたとはいえ二〜三百人のお参りはあるので、即取りやめにすることはできない。お開帳はできないが写しがあるので、例年通り輿（こし）と稚児、音楽の行列を含めて、日蓮聖人報恩と遠藤正遠顕彰の法要として継続しようと決めました。

ただ農作業が忙しくなる時期と重なり当番の負担も大変なので、お手伝いいただく内容を簡素化する方向で検討します。今年は曾根、升潟地区

が年番に当たりますので、宜しくお願ひします。

檀信徒宅には日程表、奉納袋（塔婆回向、祈願）をお配りしますので、お申込みと当日の参詣をお願いします。またお稚児さんを募集します。小学校入学前くらいの男女十名、詳しくはお問い合わせください。

造園工事進む

かねてよりお知らせの三重塔修復は順調に進んでいます。解体作業では製作者名や年代は判明しませんでした

が、文化財関係の文献調査で少しずつわかってきたこともあり、先が楽しみです。

最終的な完成は九月末ですから、



各専門家による合同会議

十月二日（予定）に竣工記念法要を考
えています。詳しくは次回ご案内しま
す。

関連して、塔を置く境内の一部造園
工事を進めています。樹木の移動があ



り、この春
先にしか作
業ができま
せん。とこ
ろが山の雪
解け水が地
下に浸透し
ており、三
十センチ掘
っただけで
水が出てく
るなど、難
工事になり
ました。

いるのですが、水はけが悪いので池の
周囲に暗渠といって地下水を別に流す
管を埋めるなど、目に見えないところ
に苦労があります。百年は越すであろ
う樹齢のサルスベリの移植も大変でした。
工事は業者を頼む予算を節約して、
妙光寺土木部と称して鎌田、小泉に檀
徒の本多さんとその仲間の応援をもら
い、機材はリースでやっています。本
多さんはクレーン屋がお仕事で土木技
術の専門家です。

また設計と工事指導が造園設計家の
野澤清先生。野澤先生は妙光寺の安穩
廟のほか、東京では世田谷美術館、皇
居吹き上げ御所、新潟では味方村の笹
川邸等の造園に関わっておられます。
今回は若いお弟子さんも参加されるな
ど、十二分の陣容です。

造園工事は樹木の関係で四月中に塔
の土台まで完成させたいと思っていま
す。また完成後、通路の一部変更など
があります。工事中の足元、及び完成
後に慣れるまでお気をつけ願います。
（十一ページに設計図面を掲載しました）

ホームページ開設準備中

いまコンピュータの普及で通信
が郵便や固定電話から、携帯電話
とインターネットに変わりつつありま
す。高齢の方にはなじみにくいかも
しれませんが、お寺といえども取り
入れないといけない時代になってい
ます。

ことに最近は法事の日取りや打ち合
わせに、インターネットで連絡される
若い方も増えています。今のところは
住職個人のアドレス（電話番号のよう
なもの）で対応していますが、不都合
もあります。またホームページといっ
て、妙光寺を知りたいという社会の人
に伝える手段としての窓口を、コンピ
ューター上に作る必要性を前々から感
じていました。

そこで準備を進めてきて、ようや
く形になります。写真と原稿が揃い、
現在業者に製作を依頼中です。この
「妙の光」の写真がカラーで見れるほ
か、お友達への紹介や道案内が楽に
なります。季節ごとに写真を更新し



絡がとれます。次号にはドメインもお知らせできます。

ますので、居ながらにして妙光寺の四季を味わうことができます。お寺への連絡窓口も作りますので、時間の制約なく連

くさんの木が伐採されました。その木を使ってコカリナを作り、オリンピックの表彰式で演奏して開発で犠牲になった木にもう一度命を吹き込んだことで、あらためて自然環境の大切さを伝えたとして話題になりました。

コカリナ演奏の第一人者の黒坂正文さんが、妙光寺の本堂で吹きます。先日下見に来られた黒坂さんが、サントリホールにも匹敵すると、言ったとか：：。それほど気に入ったそうです。乞うご期待です。

四月二十六日(月)午後七時。主催は「巻親子劇場」ですが、詳細は同封チラシをご覧ください。チケットは妙光寺でも扱います。

升屋上人ご遷化

ご存知の方も多い茨城県日英寺の升屋上人が、先ごろご遷化(僧侶の死去)されました。

先代住職が日蓮宗伝道部長として東京の宗務院に勤務したときの部下で、お世話になったからと、先代亡き後ずつ

と現住職を影で支え続けてくださいました。

特に八月一日の墓参りには、一昨年まで三十年余り朝五時半の一番の方のお経を引き受け、お参りの方ともすっかりお馴染みでした。幼い頃から同行して手伝ってくれた次男も三十歳を越え、「毎年八月親父と妙光寺さんにお邪魔するのが楽しみでした。もうそれもできなくなって悲しいです。もう一度親父と海岸の浜茶屋で、海に沈む夕日を見ながらビールを飲みたいと思います」と、メールにありました。

コカリナのコンサート

音の響きのいい本堂で、コカリナのコンサートがあります。「森の精が宿る笛」といわれるコカリナは、ハンガリーで生まれ日本でも作られるようになった可愛らしい木の笛です。これを野山で吹くと鳥と一緒に鳴き始めるといわれるくらい、心癒される自然に溶け込んだ音色がします。

長野オリンピックのとき、工事でた



会員宅を訪問中 他



内と東京、埼玉に伺いました。三月は函館に参ります。旅好きな住職は遠方もいけませんから、ご希望の方はお知らせください。

「妙の光」をあの人に

「これを同居していない息子にも送って欲しい」との声があり、前述のように、縁者の方にも妙光寺を知ってもらいたいことだと思えましたが、そこで申込書にある承継予定者か連絡人にも、「妙の光」をお送りすることを計画しています。

名簿の整理に時間が要ります。希望者だけにするか、不要な人以外全てにするか、無料か送料だけでも負担していただくか、これらを検討する時間をください。またご意見、アイデアがありましたらお知らせください。

夏のフェスティバル

第十五回になります恒例のフェスティバル安穩は、八月二十八日（土）を予定しています。今年も宿泊もご用意

ところが大半は五、六十台の遺族から「何にもわからない、どうすればいいでしょう」というものです。会員は高齢化し、縁者の方は妙光寺のことを何もご存じなくて世間一般にありがちなお寺への警戒感を持ち、ちぐはぐなことが起こります。

病気がつたとき、死に臨んだとき、死後、どうしたいのか。家族の有無に関わらず、ことが起きる前に準備しておくことが大切です。ときには法律できちんと守ってもらうことも大切なことです。必要なら弁護士等専門家を紹介します。

そっちは心配ないけどただ住職と話したい、と言う方もおられます。ひとり一人のお話をお聞きしたい、そう思ってお訪ねしています。二月は新潟県

安穩廟の開設が平成元年ですから今年の八月で九十五年を迎え、会員数も五百件を越えました。この間、初期の会員さんが亡くなられたり、入院や施設入所の方も増えていきます。そのため「心配事があつて住職に相談したいけど、妙光寺まで行けないから来てもらえないか」という声が寄せられています。

また具体的に「成年後見制度を使って、もしものときの対応を依頼したい」とのお話しがあり、弁護士、会計士、エンディングセンター（生前契約のアドバイス機関）関係者を交えた協議の場を設けました。このときは主に法律上の問題でしたので、弁護士と今後相談していくことになりました。

葬儀の相談や依頼も増えています。

できないか、検討中です。朝晩はぐつと涼しくなる季節ですので、ぜひ予定してお出かけください。詳細案内は次回に。

「杜の安穩」花立の位置を改良

「杜の安穩」では花立が風で転びやすい問題があり、ご不便をおかけしました。床の部分に棒を立てましたので、これと墓石のあいだに花立の裏の面を差し込むと、引っ掛かりができて転びにくくなります。ご利用ください。



「杜の安穩」増設工事

平成十四年八月に開設した「杜の安穩」は、その前から予約受付したせいもあります。早くも八十区画満杯になりました。三月お彼岸明けからさらに十基八十区画を増設し、七月完成を目指します。「十数年前の新潟日報の連載記事を読んで、ずっと心に留めてきた」という方がいまだに來られることに感激しています。

完成までは予約受付で対応します。今回の増設分を含め、あと二十基百六十区画で敷地がなくなり、対応も限界です。



「子育ての根っこ」

小川 なぎさ

ひな祭りが過ぎたというのに、外は真っ白な雪景色です。小さな赤い梅の花や、つぼみが少し開いたクロッカスはどうなっているでしょう。

この冬は私事でもうしわけないですが、私の気持ちの中心は二番目の娘にありました。この子は次女らしくしつかりもので、早くから自分の進路に目標を持ち、二月の受験にむけて進んできました。今はまだ結果を待っているところなのでなんとなく気もそぞろな毎日を送っています。頑張っている娘のために、「受験生レシピ」の本などを買って少しでも脳みそのために良い献立を考えたりしました。遊びに行くことも無く、母親業どっぷりの数ヶ月をすごしました。

四人の子どもを育ててくる中で、い

つも娘たちにも自分にも言い聞かせていたこと「人はひと、自分は自分」という言葉でした。年子ということもあり、成績でも運動でも同じ学校という土俵のうえで、比べたくなくても結果が出てしまうこともあることは予想できませんでした。

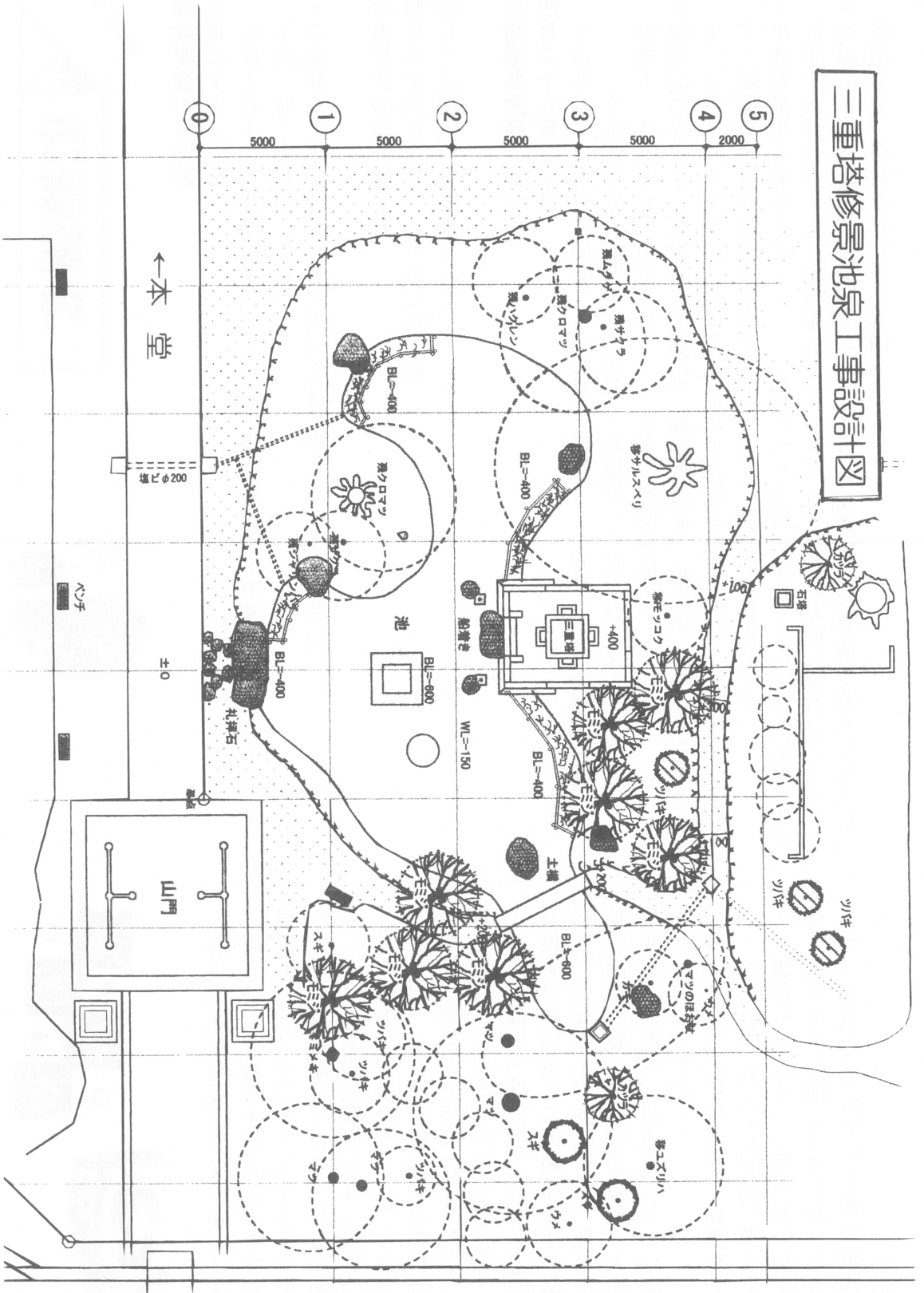
私自身は本心から、比べることに意味が無い！と思っていました。そのことを娘たちに理解させるにはどうしたらよいかと考えて、まるで呪文のように、小さいころから「人はひと」と言い聞かせてきたのです。財産のない私たちにとっては、自立するための力をつけさせ、一人ひとりが自分の力で精神的にも経済的にも独り立ちさせることが、子育ての最終目的と思っています。

二十年のお寺での生活で、出会ったたくさんの方々から人が生きてゆくために大切なことは何か、ということを中心に学ばせていただいたように思います。本当にありがたいと思います。生きることは語りつくせるものではないし、人と比べてどうということもないし、自分自身がその環境の中でいかに真面目に真摯に取り組むことが大切か。

誰にも幸せになってほしい。雪の中でもんたが遊んでいます。犬は雪が好きですね。やっぱり。



三重塔修景池泉工事設計図



行事案内



春彼岸会中日法要

三月二十日（休日）

午前十時半—安穩廟法要

十一時—彼岸会法要（本堂）

十二時—おとぎ

午後一時—お説教（住職）

・ご参拝ください。おときも当日受付で申し込んでください。

コカリナのコンサート

四月二十六日（月） 午後七時開演

詳しくは別紙の案内チラシで。

ご判様お大会（だいえ）

四月二十九日（祭日）

午前八時半—受け開始

九時半—説教

十時半—山門法要・行列

十時四十分—稚児音楽大法要・お加持

昼—おとき

午後十二時五十分—山主説教 一時半—施餓鬼法要

・檀信徒の皆さんには事前に志納袋（施餓鬼塔婆、祈願申込み）をお配りします。お申込みください。祈願は午前の大法要で読みあげ、お札を差し上げます。施餓鬼塔婆は午後の法要で塔婆を立て、読みあげ回向します。

・出仕の稚児を募集します。三、四歳から小学校一年生くらいまでの男女十名。近年子供が少なくて、定員割れしています。詳しくはお問い合わせください。

・今年の年番は曾根・升湯地区です。また角田地区には事前の幟立てと当日の輿担ぎを、それぞれ宜しく願います。

あ・と・ぎ



前号で姪が映画「ラストサムライ」に出ていると書きましたら、「うちの息子もアメリカにいてエキストラで出た」という電話をくださった方がありました。友人の住職からは「気をつけて見たけどわからなかった」とも言われました。なるほど姪が出たのはほんの数秒、それでも姪は「私はいいい方で、お友達はカットされた」とのこと。

こんどはいっぱい出てる話。今話題、女優若村麻由美さんの結婚相手で「釈尊会」会長の小野兼弘さん。彼とは高校の同級で親しくしていました。大学後は年賀状程度で、最近あまりいい話はなかったんですが……

静まり返った冬の寺が、春到来で暖かくなるにつれ人の訪れが増えてます。風がやさしく、「春の匂いがあるね」なんて声も聞こえました。これらが一番気持ちのいい季節の境内です。

小川